

あぶり八尾都塚 介護職員／環境部 副部長

よめ
米留 拓

あぶり志紀 介護職員／環境部 副部長

お
うら
尾浦 良行

ものでした。

尾浦 私も同様です。最初に看取った利用者様は、前日は普段通りだったのに翌日には亡くなられていて、そのギャップにショックを受けました。ただ眠っているだけのようにも見える穏やかな最期が印象的でした。

——環境部の活動について教えてください。

米留 「フルオープン可能な会社へ！カッコ良く働きたい職場環境を作る」という理念を持って立ち上げた部で、「見せられる倉庫作り」に取り組んでいます。「散らかって隠したい場所」という概念を変えていきたいです。

尾浦 あぶり志紀では1か所目の倉庫に着手し、必要な物の置き場を決めて収納ボックスのデザインを統一し終えたところです。次は、各所の整理整頓チェックリストの作成に取り組み、きれいな状態を「保つ」とを目指します。

米留 あぶり八尾都塚の倉庫は、設計段階から壁紙もレンガ調などお洒



落に作られていて、見せられる倉庫作りを進めやすかったです。到達度約9割といったところです。

今は環境部員がメインで行っていますが、私たちの目標は、一般職員の方にも環境面に対する意識を持ってもらうこと。そうなれば、さらに施設が良くなると思います。

尾浦 環境部が中心となって周囲を巻き込み、皆で環境整備を、意識的にも習慣的にも行っていくことが「企業文化」につながっていくので

今回は、2020年4月に入社した米留拓さん、尾浦良行さんにお集まりいただきました。印象深い出来事や、立候補した環境部副部長としての活動、今後の展望などについて伺います。

——介護の仕事をした理由を教えてください。

米留 大学では商学部に通っており、最初はメーカー職中心に企業探しをしていました。介護の仕事に興味を持ったのは、リクルーターの方から勧められたことがきっかけです。あぶりの施設見学の際、職員だけではなく利用者様も笑顔で楽しそうにされている様子が「華やかさの逆転。」「この現場でなら働きたい」と入社を決意しました。

尾浦 私は関西福祉科学大学に通っていたため、医療系をはじめ様々な企業の話聞いていましたが、あぶりを知ったのは就活の説明会の中で、偶然でした。同じく、施設見学の際に感じた雰囲気の良いが入社を決め手になりましたね。大学で専攻

は、と思っています。

——どのような気持ちで環境部副部長に立候補したのですか。

米留 私は整理整頓が苦手なのですが、自分の殻を破るために大変さも経験したいと考え、立候補しました。以前、入社後に少し関わりがあった、デイサービスの管理者の田島さんが環境部部長をされるということで、そこで一緒に仕事してみたいという思いもあったため、良い機会でした。

尾浦 米留くんにつつまれるかたちで副部長になったのですが、未経験の「まとめ役」に挑戦するチャンスだと思いました。普段の業務もあり、不慣れで大変ですが、与えられた仕事は最後までやり切りたいという気持ちで挑んでいます。

——最後に、今後の展望についてお聞かせください。

米留 介護経験のない新卒を採用するのは、社会的にも新しい試みだったと思います。私たちを見て「新卒

していた心理学を生かせる点も大きな理由でした。

——普段、仕事をする上でどのような点を意識していますか。

米留 1つの物事に集中しすぎないように心がけています。食堂ではフロア全体を見渡せる位置で食事の介助をしつつ、利用者様の様子を観察。普段の様子を知ることが、異変に気づく重要なポイントだと思いますね。

尾浦 意識しているリスクはやはり、利用者様が転倒してケガをしてしまわれること。特に歩行が困難な方の移動の際には、自分の業務を中断してサポートにまわるなど「今何を優先すべきか」を念頭に置いて仕事をするようにしています。

——この1年間で、最も印象に残った出来事は何ですか。

米留 はじめて利用者様の看取りを経験した時は辛かったです。それまでは、出勤して利用者様に挨拶するのが当たり前だと思っていたので、急逝は想像以上にショックが大き

採用には大きなメリットがある」と思っていただけのように、新鮮な考えを持ったあぶりの一員として成長し続けます。

尾浦 親切的先輩方に恵まれて成長できました。今度は私たちが後輩に教える番。先輩から吸収したことを後輩達に浸透させられる職員に成長し、会社の役に立ちたいと思います。

お互いの仕事ぶりに刺激を受けている米留さんと尾浦さん。飽くなき向上心を持って活躍する若い力から、目が離せません。

